

筑波大学附属図書館 機関リポジトリのこれまでとこれから

平成28年6月24日 機関リポジトリ新任担当者研修
筑波大学附属図書館 船山桂子

筑波大学 概要



沿革:

| | |
|-------|--------------|
| 1973年 | 筑波大学開学 |
| 2002年 | 図書館情報大学と統合 |
| 2004年 | 国立大学法人筑波大学設置 |

構成:

学生(9学群8研究科): 群生9,909人, 院生6,738人
教員(10系): 1,910人, 職員: 1,986人

附属図書館概要

1973年 筑波大学開学とともに附属図書館設置

2016年現在...

蔵書: 図書所蔵冊数 2,643,346冊

(和書: 1,605,354, 洋書: 1,037,992)

雑誌受入タイトル数 9,487誌

電子ジャーナル契約タイトル数 28,970誌

利用者用PC台数: 371台

分館体制: つくば地区 中央, 体育・芸術, 医学, 図書館情報学

東京地区 大塚

組織: 2課21担当(専任職員59名)

リポジトリ体制は
専任2名非常勤4名



リポジトリ概要

Tulips-R (<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/>)



収載コンテンツ数

37,765件 (2016年6月17日現在)

学術雑誌論文 7,092 件

博士学位論文(本文) 2,927 件

学内紀要論文 15,903 件

最近のトピック

- ・2014年5月 リポジトリシステム移行 (Dspace から JAIRO Cloud へ)
- ・2015年11月 オープンアクセス方針採択
- ・2016年3月 リポジトリ開始10周年

担当内容は、
リポジトリ広報(啓発イベントや講習会)
登録コンテンツの提供依頼と登録作業
冊子提供分のスキャニング etc.

リポジトリのこれまで

リポジトリ以前...

1998年1月 電子図書館システム導入
貴重書および学内生産資料の電子化・公開を開始

- ・電子図書館のコンセプト

「研究情報の発信

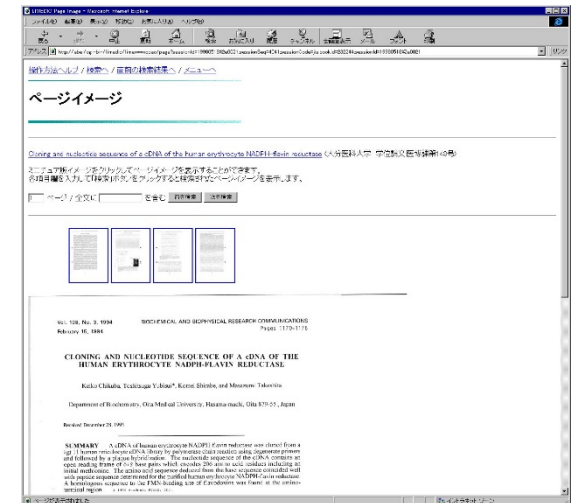
– 学術的価値の高いオリジナル研究成果を全世界へ発信 –」

- ・OPAC検索結果から、直接全文を表示するスタイル



- ・機関リポジトリ構築へ

2005年度電子図書館システム更新にあわせ、
そのサービスの一つとしてスタート(2006年3月～)



寄り道

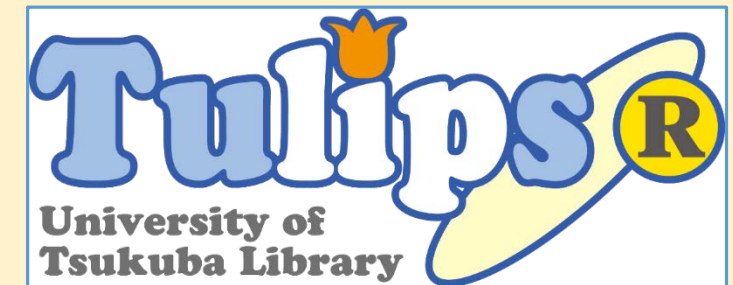
- 新しい電子図書館への更新タイミングでインパクトを！
- 広報力強化
 - 他機関例を調査
ex' はすかつぶちゃん, プワンとピヨ太郎 ...
→ 汎用性と影響力＝アピール力
 - 「Tulips-R」という名称
そのほか
-Linker, -Search, -Warp など、それぞれを
Tulipsのコンポーネントとして位置づけ

▪ キャラクター

ちゅーりっぷさん &
がまじゃんぱー



▪ ロゴ



運用開始

2006年3月つくばリポジトリ公開

(Dspaceを採用)

公開時収載コンテンツ

11,122件：博論(含要旨)6,056件、紀要論文4,515件、研究報告書551件

＊ 電子図書館からのデータをベースに発展

- 登録基準
 - 登録範囲
 - 集め方(呼びかけ＋自力提供＋紀要収集)
- リポジトリに関する要項
登録手続きに関する実施要項

研究者が本学所属時に表した教育研究成果



移行

- NII実証実験への参加から・・・

- 2013/02 実験参加への可能性を検討（当時は図書館システムのリプレイス作業中）
- 2013/08 移行実験スタート
- 2013/09 Dspaceからデータベースのフルダンプ(29,369件) & 全文データ出力(27GB)
- 2013/12 データチェック
- 2014/01 移行環境チェック & JAIRO Cloudリポジトリ画面デザイン
- 2014/02 登録データ差分更新
- 2014/05 JAIRO Cloudでのつくばリポジトリ運用をスタート

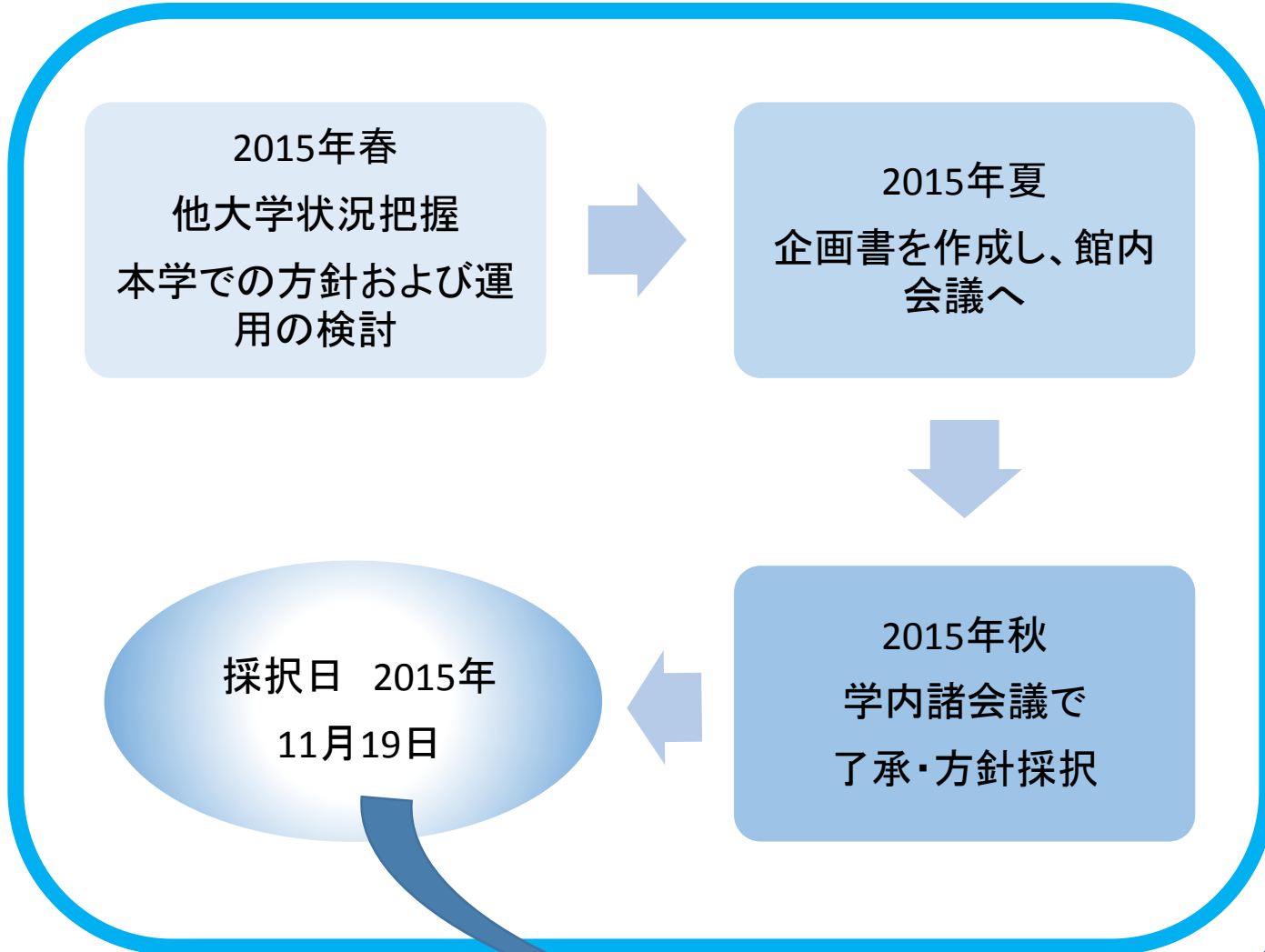
- 移行作業時のポイント

移行のお知らせ(各方面への通知)
データ乗せ換え
新旧Permalink, URLのリダイレクト

利用者はもちろんのこと、
登録データを収集している
GoogleやOistar等へも連絡を。

* このタイミングで博士論文公開義務化が！（改めて学内情報共有の大切さを実感）

オープンアクセス方針



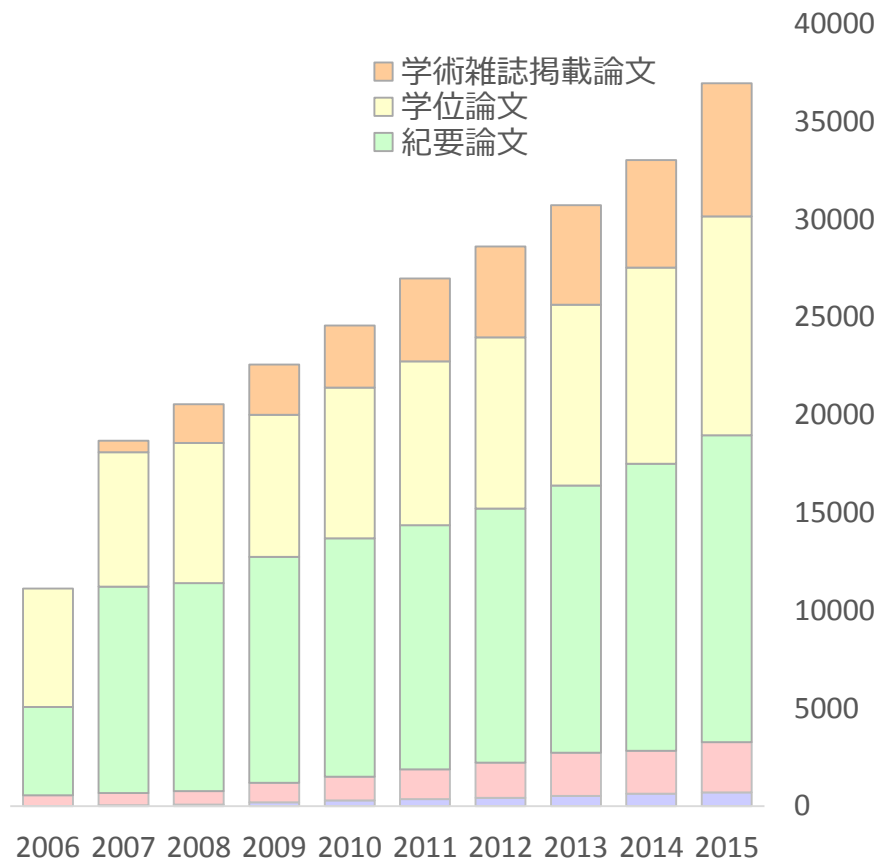
より効果的に研究業績を収集したい！

図書館での全文公開が学内の組織レベルでは浸透してきている実感（過去のリポジトリ説明会やH25年度からの博士論文公開義務化の影響もあり？）

学長のオープンアクセスに対する関心と理解

2015年11・12月 説明会受付
2016年1-3月
教員組織向けに方針説明会を実施
実施 13回 / 参加人数 402名

リポジトリのこれから



コンテンツ数の推移

コンテンツ収集をリポジトリの主目的にしない
誰にとってのどんなメリットになる？を考える

研究者からの声：

登録コンテンツがきっかけとなり、本を出版
することになった！

登録論文のアクセス数通知が励みになる！
インターネット上に研究発表の場が確保される
のがうれしい！（学内紀要における研究者
のインセンティブが高い？）

課題（平成24年度に挙げていたこと）

- コンテンツ収集
- リポジトリシステムのバージョンアップ
- リポジトリ側と電子図書館システム側に分かれた全文情報の統合
- リポジトリの利用促進
広報
パスを増やす

コンテンツ収集と広報は
リポジトリ運営の両輪

どちらかに
片寄っても
うまく動かない・・・。

年数が経過しても変わらない課題があります。
これで完了！ということはありません。

一步一步前進

ありがとうございました

